

質疑・一般質問

12月6日、7日、8日の本会議では、24人の議員が登壇し、不登校対策や明石川の水質の安全性などについて、市の見解を求めました。

発言者と質問項目の一覧は下段に、主な内容は2面から5面に掲載しています。

なお、QRコードを読み取ると本会議の録画映像をご覧いただけます。



発言者一覧

—発言順— () は会派名

- 中川夏望** (市民の会)
①インパクト投資 ②医療的ケア児への対応 ③子育て支援のさらなる拡充
- 竹内きよ子** (明石かがやきネット)
①放課後児童クラブの課題 ②人生100年時代、健康長寿命で安全なまちづくりを ③本市の小・中学校の抱える課題とその対応 ④不登校対策、ポストコロナ社会における子どもの居場所
- 正木克幸** (明石維新の会・代表質問)
①新たな財源確保に向けた中長期的な政策ビジョン ②業務効率を上げることによる財源確保
- 千住啓介** (自由民主党明石・代表質問)
①今後の明石市の方向性
- 梅田宏希** (公明党)
①国の重点支援地方交付金 ②工場緑地面積率の緩和 ③带状疱疹ワクチンの助成制度 ④動物と共生するまちづくり
- 黒田智子** (市民の会)
①不登校対策 (COCOLOプランにどう取り組むのか) ②インクルーシブなまちづくり ③「ステップハウス」等の自立支援
- 林丸美** (明石かがやきネット)
①協働のまちづくり ②こどもの居場所、遊び場
- 高尾秀彰** (明石維新の会)
①小・中学校の空調設備の整備 ②新中崎分署
- 出雲有希子** (自由民主党明石)
①明石市立市民病院の老朽化対策 ②明石川を水源とする水道水の水質 (安全性)
- 河村和歌子** (公明党)
①ヒトパピローマウイルス (HPV) 感染症の対策 ②独り暮らしの高齢者が地域で安心、安全に生活するための支援
- 山中裕司** (市民の会)
①ごみの減量に向けた施策の取組状況 ②動物の愛護と適切な管理 ③大久保北部の里山保全に向けた取組
- 宮坂祐太** (明石かがやきネット)
①福祉人材の確保・育成・定着支援と高齢者福祉施設の整備促進
- 中村茂雄** (明石維新の会)
①高齢者詐欺被害 ②脱炭素に向けた取組
- 石井宏法** (自由民主党明石)
①明石市内での打ち上げ花火 ②本市の水道事業
- 長尾博子** (公明党)
①小・中学校における体育館の空調設備の設置 ②校内フリースクールの設置による不登校児童生徒への支援の充実
- 金尾良信** (市民の会)
①明石商業高等学校福祉科開設 ②市内の小・中学校、特別支援学校への支援 ③福祉人材の育成・確保 ④石ヶ谷公園の利用
- 寺井吉広** (明石かがやきネット)
①高齢者施策 ②山陽電鉄西井ヶ島駅バリアフリー整備 ③明石市内の犯罪被害
- 上田雅彦** (明石維新の会)
①高齢社会における本市の対応 ②播磨臨海地域道路
- 井藤圭順** (自由民主党明石)
①選挙の投票機会の確保 ②明石市社会福祉審議会児童福祉専門分科会
- 国出拓志** (公明党)
①気象防災アドバイザー ②庁内の空調 ③保育施策 ④自治会運営
- 山下祥** (市民の会)
①誰一人取り残さない「海のまち」づくり ②安心できる「子どものまち」づくり ③新たな財源を生み出す施策
- 辻本達也** (日本共産党)
①明石川の水質汚染 ②消防中崎分署の移転 ③市民相談への対応 ④公職選挙法第178条 ⑤林崎掘削 ⑥クビアカツヤカミキリ対策
- 中西礼皇** (対話の会あかし)
①明石川の水質・PFAS (有機フッ素化合物) の問題 ②大久保北部市有地
- 家根谷敦子** (スマイル会)
①誰一人取り残さないまちづくり

明石市立市民病院の再整備 プロジェクトチームで検討 来年度に具体的な方向性示す

問 明石市立市民病院の再整備について、昨年7月に庁内で地域医療のあり方検討プロジェクト

チームを設置した。プロジェクトチームは、将来の地域医療の動向を踏まえ、市民病院が果たすべき役割や医療機能、経営健全化の観点から検討を重ねるため設置した。検討に当たっては、多角的、専門的な分析等が必要となるため、専門業者による調査も行い、10月には市民病院の現地視察を行った。同チ



将来の地域医療の在り方も検討

ームでは、現在、老朽化の現状把握や長寿命化の可能性、整備手法の検討に加えて、医療二

ームでは、現在、老朽化の現状把握や長寿命化の可能性、整備手法の検討に加えて、医療二

ーズの把握、将来設計等の経営および財政面における検討など、情報収集や分析等に取り組んでいる。今年度中に調査・分析結果を取りまとめ、来年度には有識者等を含む検討会議を立ち上げ、具体的な再整備の方向性を示していきたい。

働きやすい福祉現場の環境づくり

事務効率化や待遇の改善が重要

問 福祉人材の育成・確保の取り組みを聞く。

答 福祉現場で働く全ての職員が働きやすく、働き続けたい環境づくりを支援するため、介

護・障害福祉分野の資格取得支援や研修および就職フェアの実施など、幅広い施策を展開している。昨年7月からは順次、関係団体や

福祉現場で働く職員にヒアリングを行うとともに、高齢者や障害者施設の職員にはWEBアンケートを実施した。やりがいや信念を持って仕事に取り組む人が多くいる一方、待遇や労働環境の改善を求める声も多く、事務負担等の軽減は利用者支援

の充実や職員の定着につながる重要な取り組みであると考えている。今後も、あかしの福祉の好事例集を参考にヒントとなる情報を発信するなど、各事業者の事務の効率化を支援するとともに、より効果的な支援策を調査研究していく。

不登校児童生徒

過去最多を更新

課題と支援は

問 本市の不登校の現状と課題および学校内外の支援について聞く。

答 令和4年度の本市の不登校児童生徒は、中学生564人、小学生230人で、ともに過去最多であった。

支援については、児童生徒が進路を主体的に捉え、社会的な自立を目指す必要がある。いかに個々の状況に応じた丁寧な支援を実施していくかが課題の一つである。学校内の居場所として、教室に入りにくい児童生徒は小学校では保健室や相談室などで、中学校では支援教室で学習支援や時間差登校の対応など、

長期間不登校の児童生徒はスクールカウンセラーにつなぐなど、個々に応じた支援を行っている。学校外の居場所としては、市教育支援センターのむくせい教室、公設民営のあかしフリースペース・トロッコ等がある。今後も児童生徒が適切な支援を受けられるように努めていく。

高齢者のフレイル予防 早期の対策が重要

地域連携の取り組みを進める

問 本市のフレイル予防の取り組みを聞く。

答 フレイルとは、加齢に伴い、心身の機能が低下した虚弱な状態を指し、状態が進むと要介護状態につながるた

め、早期の気付きによる適切な対策が重要である。本市では、フレイルの概念や予防の柱である運動・栄養・社会参加について、広報紙等で周知するとともに、フレイル予防や介護予防に関する出前講座や体操を中心とした自主グループ活動の育成や運営費補助など、高齢者の主体的な活動を支援している。

今年度からはフレイルチェック事業を開始し、フレイルサポーターの養成研修やふれあいの里でフレイルチェ



フレイルサポーター養成研修

ック会を順次開催する。今後、高齢者のさらなる増加が見込まれる中、健康寿命を延ばすフレイル対策の必要性は高まると認識しており、地域団体と連携した効果的な取り組みを進めていく。

必要と考える。

学校体育館への

空調設備の設置

市の見解は

問 温暖化により熱中症のリスクが高まっている。学校の空調設備の設置状況および体育館の活用状況を聞く。

答 本市の市内全小・中・

養護学校の普通教室と特別教室への空調整備は、令和2年度までに完了している。熱中症対策として夏場の体育館での授業は、窓を全開にしてスポットクー

ラーや大型扇風機を使用するなど、暑さの緩和に努めている。また、教員は授業中も児童生徒に水分補給を促し、早い段階で異変に気付くよう見守りを行い、暑さ指数が基準を超えた場合は、運動を中止している。

なお、全国の小・中学校体育館への空調設備の導入率は令和4年9月時点で約12%、全館空調は限定的で部分空調が多く、本市も他市事例を参考に必要経費など総合的な検討が必要と考える。